

附属小の研究発表会 ここがポイント！

～子どもの姿をもとに「これからの授業」について一緒に語り合いましょう！～

POINT ① 全ての教科等で「言語活動を大切にした授業」を提案します！

POINT ② 新教科に向けた授業を公開します。
 ■道徳2年「あきらめなければ光が見える」……………授業者 宮原 大輔
 ■外国語活動5年「What's this? ～発見！英語のひみつ～」…授業者 前田 陽子

－研究主題－

豊かな「対話」で広がる創造的な学び（4年次）

～生きて働く力を育む文脈的な探究プロセスを求めて～

期日 平成28年2月12日（金）

8:15	9:00	9:45	10:00	10:45	11:00	12:25	13:25	15:45
受付	公開授業Ⅰ	移動	公開授業Ⅱ	移動	教科等分科会	昼食	全体会・講演	閉会

会場 熊本大学教育学部附属小学校

内容 各教科等の授業公開・分科会
 講演「育成すべき資質・能力とアクティブ・ラーニング」



講師



なす まさひろ
奈須 正裕先生

上智大学総合人間科学部教育学科教授
 博士（教育学），東京大学大学院修了
 神奈川大学助教授，国立教育研究所室長，立教大学教授などを経て現職

著書：『学校を変える教師の発想と実践』（金子書房）
 『学ぶ意欲を育てる－子どもが生きる学校づくり』（明治図書）
 『子どもと創る授業』（ぎょうせい）

研究発表会申し込み締め切りは**2月5日（金）**です。よろしくお願いします。

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~elem/> **熊大附属小** **検索**

熊本大学教育学部附属小学校 **研究だより VOL.44**

発行日 平成28年1月21日

編集・発行 熊本大学教育学部附属小学校 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12 TEL 096(356)2492 FAX 096(356)2499

VOL.
44

平成27年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより



豊かな「対話」で広がる創造的な学び（4年次）
 ～生きて働く力を育む文脈的な探究プロセスを求めて～

詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会締め切り間近！！

ごあいさつ

本校の研究主題は，“豊かな「対話」で広がる創造的な学び（4年次）”です。4月から毎週交替で行ってきた研究授業と授業研究会では，一人ひとりが成果を上げること意識しながら研究を進めた一年でした。子どもの思考がどのように生まれどのように発達していくかという“構成主義的”な視点と，教師と子ども（あるいは子ども同士）で，という社会（関係）的”な視点との統合を目指しながら実践を積み重ねてまいりました。年度の後半には，教員の指導性が授業に，子どもたちの学びの姿にどのように反映されているのか，同学年・同教科等の教員が相互に授業を観察し省察し合う場（授業のリフレクション）も設けました。

研究発表会では，熊本県・市の教育委員会と小学校の諸先生方ならびに熊本大学教育学部の教員の皆様等のご来席を得て，分科会を開催させていただきます。全体会では，奈須正裕先生（上智大学教授）に「育成すべき資質・能力とアクティブ・ラーニング」のテーマでご講演いただきます。参加者の皆様には，積極的に議論にご参加いただき，有意義な研究発表会にしていただきますよう心からお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 藤田 豊

公開授業Ⅰ

9:00～9:45

国語科 第4学年「ごんぎつね」

読むことの授業に学びの「文脈」を作る



教師だけが見通しをもって授業をしても、子どもに生きて働くことは身に付きません。子どもにも学びの「文脈」が必要なのです。明確な意図をもった言語活動を通して、自他の読みを高め合う子どもの姿を公開します。(中尾 聡志)

算数科 第5学年「比べ方を考えよう」

感覚をもとに割合を創る



「～をもとにすると」という割合の見方は子どもにとって難しいもの。そこで本時では、身近で感覚的な「くじの当たりやすさ」を数値化することにより割合の考えを創り出す授業を提案します。(水上 洋平)

図画工作科 第6学年「わたしの大切な風景」

構図の悩みを解消できる授業を提案します



興行きを思い通りに表すことは案外難しいもの。この悩みを解決するには秘訣があります。その秘訣とは、遠近感や彩色表現。鑑賞等の活動を通し、思いに合った表現に繋げる授業を提案します。(島崎 桂一郎)

外国語活動 第5学年「What's this?」

外国語活動はこう変わる！



「この部分なんか言い方が似てるよ！一文字違うだけで意味が変わってくるの？英語って面白い！」ゲームの中で聞こえてくる英語の発音と文字を比較しながら、類似点や相違点に着目し、自ら英語のきまりを見いだす授業を提案します。(前田 陽子)

国語科 第1学年「ためきの糸車」

読み深めるための方略を考える



1年生の子どもたちが互いの考えをつなぎながら、新たな考えを創り出していく、そんな授業を提案します。ただ、子どもたちに話し合いをゆだねるのではなく、教師の適切な介入や学習環境を整える等の手立ても講じていきます。(坂崎 慎太郎)

社会科 第3学年「調べよう ものをつくる仕事」

子どもが本気になる地域学習を提案します



地域学習では、どのような視点で事例を選び、どう授業化すればよいのでしょうか。地域で多様に行われている仕事の中から、子どもが本気で追究する事例を選び、その授業づくりを提案します。(平川 純哉)

理科 第3学年「電気の通り道」

モデルで表す電気の流れ



回路ができるとあかりがつくと納得してしまう子どもたち。そこで、回路の中を流れる電気に着目し、モデルで表すことで、あかりがつく現象を電気の流れという視点からとらえなおしていきます。(前田 理代)

体育科 第6学年「ミニテニス」

攻守一体ネット型の可能性を探る



小学校の体育にテニスがない理由は、用具を使うことが難しいから？しかし、神経系の発達が著しいこの時期にこそ、用具を使うべきでは。この観点から、「ミニテニス」の授業を提案します。(豊田 誠一郎)

総合(栄養・食育) 第5学年「見つめよう 自分の食生活」

未来に生きて働く食育を提案します！



自分の食生活は健康的なの？無意識だった食生活を見つめ、身近な問題としてとらえさせます。生涯の健康を見据え、今を改善するための工夫を互いの生活経験を交流させながら探っていきます。(大野 夕貴)

生きて働く力を育む



研究部長 西村 正之

果たしてこれまでに、一人一人の子どもが悩み、迷い、解決せざるを得なくなるような課題を私たち教師は設定することができていたでしょうか。子どもたちの大半が分かりきっているようなものを課題として設定し、スムーズに理解へ導くための教具等を、それを欲してもいない子どもたちに教師側から一方的に与え、なんとなく分かったつもりにさせる。そして「できるようにすることが大切」といい、類似の問題を繰り返し解かせ、ワークテストの結果に安心する。これで、21世紀を生き抜く力を育むことができるのでしょうか。私たち教師がどうしても抜けきることができない、この旧態依然とした授業スタイルからの脱却こそ、いま私たちに課せられた使命ではないでしょうか。

私たちは、子どもたちがもっている「素朴概念」を最大限引き出し、それでは立ち行かなくなる状況を作り出したところで、課題を設定していくようにしています。教師の都合ではなく、子どもたちにとって解決せざるをえなくなる課題と出会わせることで、子どもたちの中に他者とかかわり、論理的に思考し、表現する必然性が生まれてきます。このように、自他の納得を目指し、試行錯誤する学びの中で育まれるものこそ、社会で生きて働く力であると確信しています。

本研究発表会では、ここで紹介している22の授業を公開いたします。多くの先生方にご参観いただき、ご指導いただければ幸いです。

音楽科 第1学年「森のくまさん」

音楽遊びで、学び方を変える！



「問いと答え」という音楽の仕組みは、子どもたちが何気なく行っているやりとりにも隠れています。音楽遊びを楽しむ中で、子どもたちが自らその仕組みに気付いていけるような授業を提案します。(蒲地 悦子)

道徳 第2学年「あきらめなければ 光が見える」

教科化に向けた最新の授業を提案します



自分とは違う他者の価値観に出会ったとき、なぜそう思うのか疑問が立ち上がります。そこで、他者の考えている状況を明らかにする「おたずね」を取り入れることで、子どもたちが価値に迫っていく授業を提案します。(宮原 大輔)



算数科 第4学年「直方体と立方体」

立体の見方が変わる展開図の授業を提案



展開図の学習は平面図形と立体をつなぎ、空間認識力を高める大切な内容です。しかし、そのための効果的な活動をさせることはできているでしょうか。立体の辺や面の位置関係をとらえるための新たな切り口を提案します。(大林 将呉)

音楽科 第6学年「音楽づくり」

「思いや意図」にこだわります



循環コードで音楽づくり。仕組みを教える授けるのにも一苦労。ましてや思いや意図までは…そんな授業から脱却し、子どもたちが自ら表現方法を見出して音楽をつくる授業を目指します。(中島 千晴)



国語科 第6学年「やまなし」

問題解決的に物語の謎を解き明かす！



様々な表現技法で描かれた「やまなし」の謎を問題解決的に読み解きます。「読みの視点」と「可視化」をキーワードに、物語の内容だけでなく、学び方も獲得する「読むこと」の授業提案をします。(下中 一平)

社会科 第5学年「広がる情報ネットワーク」

情報学習の本質に迫る授業を提案します



暮らしを豊かにする「情報ネットワーク」を、機器の普及によるものととらえている子どもたち。情報化社会で、本当に大切にしなければならないものは何か？みんなで明らかにしていきます。(定松 良彰)

理科 第4学年「ものの温度と体積」

事象をモデルで理解する



ものの大きさが温度で変わることはありえないと考える子どもたち。温度によって体積が変化する現象を、モデルに表し検討させることを通して、体積変化の意味を理解していく授業を提案します。(井上 竜作)

図画工作科 第1学年「みてみておはなし」

見方を広げ、よりよい表現を見つける！



子どもたちは、一度絵に表すと満足してしまいがち。そこで、感じ取った造形要素の特徴をもとに見直し、具体物を通して友達とかかわる中で、よりよい表現を見つけていきます。(毎床 栄一郎)

総合 第4学年「リサイクルって必要？」

多様な視点で情報の妥当性を探る！



リサイクルはいいことだと考えている子どもたち。そこで、「環境のためにリサイクルをしてはいけない！」と相反する主張に出会わせます。「一体なぜ？」と思考錯誤しながら、批判的に考える授業を提案します。(前田 陽子)

公開授業Ⅱ

10:00～10:45

算数科 第2学年「分数」

分数導入のアプローチを考える



分数を「いくつかに分けた1つ分」と曖昧にとらえているため、その後の学習でつまずくことがあります。初めて出会うこの時期にこそ、分数の見方を豊かにしておきたいのです。そのためのアプローチを提案します。(東 裕治)

生活科 第2学年「チームワークで カブラをつみあげろ！」

「おたずね」で気付きの質を高めます



「おたずね」は、事実を問う力・関係づける力を高めるとともに、問いを立ち上げて再探究を促し、気付きの質を高めるものでもあります。そのための教師の方略を提案します。(藤本 裕人)

家庭科 第5学年 ごはんとみそ汁

実験調理から探る！



みそ汁なんて、簡単！と思っている子どもたち。作ってみると、実が固い、汁が煮詰まっている等、うまくいきません。そこで、それらの気付きから課題を設定し、実験調理を行い、最適な実の切り方や加熱の仕方を明らかにしていきます。(廣瀬 文子)

保健・健康教育 第3学年「けんこうな生活」

養護教諭の視点を生かした保健学習



自分の生活を見直すことを通して、自分の健康を保つためには、どう行動し、生活を改善していけばよいのか探っていきます。養護教諭だからこそできる授業を提案します。(竹口 洋子)